

## 南洲翁遺訓を偲ぶ

山内 裕子

鎌倉妙法寺にて

鎌倉驛より徒歩二十分、嘗て日蓮上人庵を結びし大町松葉谷に妙法寺あり、苔むす石段の美しさ當地随一なり。護良親王の御墓建ちたる山の中腹より高木の楓銀杏越しに稲村の海の見晴しよし。仁王門脇に小さき墓あり、立札に慶應三年師走、薩摩屋敷焼討事件戦死者を祀るといふ。三田薩摩藩邸内、妙法寺支院「清正公堂」より二十年前に移轉。幕末擾亂期、江戸市中見廻組務めたる庄内藩士千人を核に、不穩の勤王浪士集結したる薩摩藩邸を攻め撃つ。此事件を機に鳥羽伏見の戦、以後一年半に亘る戊辰戦争續き、錦の御旗を掲ぐる官軍天下を制す。敗れたる庄内藩を遇する官軍指揮官西郷の高潔に感服したる庄内にて、西郷歿後其言葉を記録に残したる『西郷南洲遺訓』成立、其の奇縁を偲ぶ。

南洲曰く「文明とは道の普く行はるるを贊稱せる言にして」「實に文明ならば未開の國に對しなば慈愛を本とし、懇々説諭して開明に導く可きに、左は無くして未開蒙昧の國に對する程むごく残忍の事を致し己れを利用するは野蠻」と、西洋近代文明の本質を突く。鎌倉期、道義を尊ぶ御成敗式目を定めたる北條泰時、元寇を防ぎたる時宗の偉業、文と武の傳統永き我國なり。されど徳川幕府の海禁政策二百數十年、西洋の産業革命、蒸氣機關、戦艦立銃の進化に遅れを取ることに甚だし。米國黒船の威嚇により開國、不平等條約締結にて國力疲弊、社會混亂大なりき。帝國主義時代、英吉利佛蘭西の深謀遠慮、支援畫策實に巧妙なる折、東洋の一小國の存亡危し。南洲海舟、英傑肝膽相照し江戸無血開城を果す。明治維新後、近代化百五十年、生存競争一途に墮すことなき様、我國率先して眞の文明を築く道を求むべし。

扨敗戦後七十年、今や武を輕んじ文弱に墮す。近年の國史捏造、先祖の尊嚴を貶め子孫に禍を残す愚なり。教科書問題、慰安婦問題何れも發端は嘘を實に偽りたる報道なりける、「朝日新聞」の罪業深し。近隣諸國に阿諛追従する報道機關専ら盛んに、讀者國民識見ある批判力は乏し。妖しき似非文化人蔓延する風潮に逆はぬ我政府の氣力なきこと屬國の如し。剛の獨立國たる姿何處にありや。哀れなる哉、古來培ひたる民族の魂忘れ烏合の衆と化せば我等外道に落ちざらむや。いざ我國本來の心を取戻すべし。『古事記』の神々の如き清き明き眞心、雄々しき力の今に甦るとき朗らかなる民族の資質覺醒、天地遍く和を齎すと信ず。又近現代史を知ること喫緊の課題なり。鎌倉にて酒井信彦先生指導「日本人のための世界史講座」を毎月催し此五百年の歴史を考ふる機會を得。道義の再興を期し我國の興隆を祈りたし。

(平成二十七年十二月十八日受附)